

令和8年度 高速道路調査会 研究発表会(大阪)プログラム

開催日：令和8年10月9日(金) 10:00～16:25

開催場所：AP大阪駅前（大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル）

EHRF 公益財団法人 高速道路調査会
EXPRESS HIGHWAY RESEARCH FOUNDATION OF JAPAN

項 目	時間 []内は 質疑応答	時間帯 []内は質疑応答
1. 調査研究事業報告		
公益財団法人高速道路調査会	0:15	10:00～10:15
2. 研究発表		
(1)岐阜大学 社会システム経営学環 教授 嶋本 寛 氏 道路環境と気温がドライバーのストレスに及ぼす影響に関する研究	0:25 [0:05]	10:15～10:40 [10:40～10:45]
本研究は高速道路において走行実験を行い、気温と走行環境がドライバーの生理的ストレスに与える影響を分析した。道路環境とストレスに関しては、心拍数差の時系列データを用いた波形類型化によって、幾何構造変化に対する特徴的なストレス応答パターンを抽出することができた。気温とストレスの関係に関しては、夏期と秋期の外気温差が大きいほど、夏期の方が安静時よりも心拍数が上昇し、ストレスが高くなる傾向にあることを確認した。		
【休 憩】	0:05	10:45～10:50
(2)京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 助教 松本 理佐 氏 アスファルト舗装の粘弾性特性を考慮した疲労強度向上効果の定量的評価	0:25 [0:05]	10:50～11:15 [11:15～11:20]
本研究は高速道路において走行実験を行い、気温と走行環境がドライバーの生理的ストレスに与える影響を分析した。道路環境とストレスに関しては、心拍数差の時系列データを用いた波形類型化によって、幾何構造変化に対する特徴的なストレス応答パターンを抽出することができた。気温とストレスの関係に関しては、夏期と秋期の外気温差が大きいほど、夏期の方が安静時よりも心拍数が上昇し、ストレスが高くなる傾向にあることを確認した。		
【休 憩】	0:05	11:20～11:25
(3)中日本高速道路株式会社 名古屋支社 保全・サービス事業部 保全課 松本 蒼平 氏 道路空間利活用の法制度分析と国内外事例—東京・ソウルの現地調査 からの示唆—	0:25 [0:05]	11:25～11:50 [11:50～11:55]
道路占用制度・立体道路制度・ほこみち制度の法令本文データをもとにネットワーク分析を行い、法令及び制度間の構造的関係を整理し、制度の重層化や法令の連携における課題を明らかにした。併せて、日本及び韓国における高架下空間の再生・利活用事例について、現地及び文献調査を実施した。これらの分析・調査を踏まえ、各制度の特徴や事例における運営主体のあり方などの観点から、日本の道路空間利活用の推進に向けた示唆を報告する。		
【昼 休 憩】	1:05	11:55～13:00
(4)筑波大学システム情報系 准教授 山本 亨輔 氏 車両-橋梁相互作用系シミュレーションのためのエルミート要素の開発	0:25 [0:05]	13:00～13:25 [13:25～13:30]
隊列走行に対する橋梁の信頼性設計や、振動データに基づく橋梁の残存性能評価を実用化しようとする、反復的な車両-橋梁相互作用(VBI)系の数値シミュレーションが必要となる。そこで、VBI系シミュレーションの精度は保持しつつ、計算コストを引き下げる方策が必要となる。特に、車輪位置での相互作用を適切にモデル化可能な性能が要求される。本研究では、エルミート要素を定式化し、精度と計算効率を大幅に改善する方法について報告する。		
【休 憩】	0:05	13:30～13:35
(5)京都大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 助教 野口 恭平 氏 離散的なフェアリングを用いた橋梁の耐風性向上に関する研究	0:25 [0:05]	13:35～14:00 [14:00～14:05]
一般的には構造物が大きくなるほど、耐風性を適切に考慮した設計を行うことが必要となる。橋桁の耐風性を向上させる方法の一つとしてフェアリングの設置がある。本研究では、橋桁に様に設置する一般的なフェアリングに対して、離散的に設置したフェアリングが耐風性に与える効果を風洞実験により検討した。その結果、フラッターおよび渦励振の両空力振動に対して有効な空気学的対策となる可能性を示した。		
【休 憩】	0:05	14:05～14:10
(6)京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 特定助教 曾(ソ) 冠雄 氏 活断層変位を受けるシールドトンネルの挙動に関する研究	0:25 [0:05]	14:10～14:35 [14:35～14:40]
本研究は、活断層変位を受けるシールドトンネルの変形・損傷機構を明らかにすることを目的として、50G 遠心模型実験を実施した。逆断層変位によりトンネル模型は顕著なZ字状に変形し、損傷はセグメント本体ではなく、主にリング継手のボルト孔周辺に集中した。また、継手の開口に伴う土砂流入が地表面陥没へ発展する連続的な損傷過程を確認した。これらの結果から、継手部の開口抑制と土砂流出防止が、断層を横断するシールドトンネルの設計および維持管理において重要であることを示した。		

【休 憩】	0:05	14:40～14:45
(7)石田 東生 委員長【筑波大学 名誉教授】 高速道路のカーボンニュートラルに向けた総合的な施策等に関する 調査研究委員会報告	0:25 [0:05]	14:45～15:10 [15:10～15:15]
本委員会は、2050年カーボンニュートラルに向けた、今後の高速道路分野と関連分野との共創による総合的な施策等の提言を行うことを目的としている。具体的には、国内外の道路分野等でCO2削減効果が期待できる施策の収集整理、高速道路利用分野とライフサイクル分野に分けて、高速道路会社が優先的に取り組むことが期待される施策の選定、ロードマップやフォローアップ指標、施策推進にあたっての留意事項等に関する提言について報告する。		
【休 憩】	0:05	15:15～15:20
(8)朝倉 康夫 委員長【東京工業大学・神戸大学 名誉教授】 高速道路の活用による 移動の利便性・快適性向上施策等 に関する 基礎的研究委員会報告	0:25 [0:05]	15:20～15:45 [15:45～15:50]
委員会の目的は、高速道路の利便性と快適性を向上させるための MaaS (Mobility as a Service)施策を提案することにある。MaaS は利用者の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、検索・予約・決済等を一括で行うサービスである。委員会では、高速道路の人流と物流それぞれについて MaaS の課題を整理してきた。本報告では物流を対象を絞り、中継輸送システム、レベル4 自動運転トラック、自動物流道路についてその動向と課題を紹介する。		
【休 憩】	0:05	15:50～15:55
(9)西日本高速道路株式会社 四国支社 総務企画部 企画調整課 課長 大國 守道 氏 第68回 海外道路調査団(フランス)	0:20 [0:05]	15:55～16:15 [16:15～16:20]
本発表は、第68回海外道路調査団の調査報告である。当該調査では、フランスの高速道路における ITS 技術、維持管理、自動運転等に関する取り組みを調査するため、現地高速道路を運営するコンセッション会社である、SANEF、COFIROUTE、APRR を訪問し、現地調査や意見交換を行った。		
3. 閉 会 挨拶		
公益財団法人高速道路調査会	0:05	16:20～16:25



- CPD/CPDS の「受講証明書」を配布します【リアル開催限定】

- 会場受付にて、希望者にのみ配布

土木学会認定 CPD 認定プログラム(4.5単位)/

全国土木施工管理技士会連合会 CPDS 認定プログラム(101-1 3ユニット 101-2 * 2ユニット)

【*】は年間取得ユニットに上限あります。

- TOP/TOE-CPD 認定プログラム(受講証明書配布無し、各自申請)

一般社団法人交通工学研究会認定プログラム、項目 C01.(1)として各自 CPD 単位数を申請できます。

(一社)建設コンサルタンツ協会JCCA-CPD (JCCA)認定プログラム(4単位予定)

＜オンデマンド配信のご案内＞※CPD 認定プログラムの対象外です。

【配信期間】 令和8年10月19日～11月20日(予定)

- ・本講演会の内容について、アーカイブ動画配信を行います。
- ・配信期間初日に、メールにてオンデマンド配信についてご案内します。